

東海大学社会教育センターだより

海のはくぶつかん



水槽の桜とサクラダイ

Vol.43 No.2
2013.4 春号

C O N T E N T S

- 特集** ・春の海洋生物代表選～サクラと匂～ —— 長谷部阿由美 2
- 新展示** ・自然史博物館の新展示「海から生まれた生命」— 柴 正博 4
- 話題** ・駿河湾で採集されたリュウグウノヒメ —— 富山晋一 6
- 話題** ・変わりコイノボリ史上初の…!? —— 手塚覚夫 7
- INFORMATION** _____ 8

春の海洋生物代表選

～サクラと旬～

長谷部 阿由美

Ayumi HASEBE

『春夏秋冬』四季と聞いて皆さんが思い浮かべるのは、どんな風景でしょうか。地域や年によって少しのずれはありますが、海の中にも四季があり、陸上より1～2ヶ月遅れで訪れると言われていています。春先になると産卵のために浅瀬に現れる魚、生い茂る海藻の中でモゾモゾ動き始める小さな生き物、水温が上がるにつれて海の中は少しずつにぎやかになっていきます。皆さんは春の海と言うと、何を思い浮かべますか？

◆春といえば桜。`サクラ、という名の海の生き物◆

さくらだい (ハタ科)

◎分布：相模湾～鹿児島県



海のサクラと言うと、私が真っ先に思い出すのは「さくらだい」です。名前に“たい”と付いていますが、タイ科の仲間ではあ



りません。オスの体にある白い模様が桜の花びらを散らしたように見えることから、この名前が付いたと言われていています。メスには白い模様がありませんが、鮮やかな赤系の体色を持つ1個体1個体が桜の花びらを思わせ、群れで泳いでいるところを見ると1本の桜を模っているように見えます。学名でも`サクラ、が使われ (*Sacura margaritacea*)、英語でもCherry bass (Cherry=桜) と呼ばれるこの魚は、世界共通の`サクラ、代表魚と言えるのではないのでしょうか。

さくらえび (エビの仲間/サクラエビ科)

～静岡県 旬の魚4月代表！※1～

◎分布：駿河湾・相模湾・東京湾

桜が咲く頃になると、当博物館近隣の静岡市清水区由比では、サクラエビの春漁が始まります。生きているサクラエビは透明な体をしており、赤い点々(色素胞)が

あります。ゆでたり乾燥させたりすると鮮やかな桜色になることからこの名が付いたと言われていています。サクラエビの漁は春と秋の2回行われ、獲る時期によって味わいが少し異なるそうです。春が来ると真っ先に食べたくなる、著者一押しので`サクラ、です。



◇見るのも探すのも難しい?レアな`サクラ`たち◇

さくらがい (貝の仲間/ニッコウガイ科)

◎分布：北海道南西部以南



貝殻の大きさは2cm前後と、とても小さな貝の仲間です。可愛らしい桜色をしているこの貝は、貝殻探しで人気がありますが、と

ても薄く割れやすいため見つけるのは一苦労です。本種の他に、カバザクラやモモノハナガイなどの貝類も「サクラガイ」として親しまれています。

さくらみのうみうし

(ウミウシの仲間/アオミノウミウシ科)

◎分布：伊豆半島・八丈島 など

蓑(みの)をかぶっているかのような長い突起を多数持ち、淡い桜色をしています。潮通しのよい岩礁域に生息しており、特に冷水期に多く出現するそうです。ウミウシの仲間の多くは、海藻などに紛れてしまうため見つけることが難しく、また飼育も難しい生き物です。(写真はミノウミウシの仲間です)



他にも、体がとても細長いクラゲの仲間「しだれざく



らくらげ(ヨウラククラゲ科)」や、2003年に新種記載されたばかりのヒトデの仲間「りゅうぐうさくらひとで(コブヒトデ科)」など、海にもたくさんの「サクラ」がいます。さらに日本では、地方名や季語として、桜の時期に獲れる魚介類に「サクラ」をつけて親しむ風習があります。それほど我々日本人にとって、桜は特別な存在なのです。

例：桜鯛(マダイ/季語 ※後述参照)、桜鰯(ウグイ/季語)、桜蟹(トゲクリガニ/地方名;青森県)、桜ダコ(ミスダコ/地方名;茨城県)など

◆春に美味しい代表魚(旬)◆

「サクラ、もいいけれどやっぱり「花より団子」。食いしん坊の貴方は春の海といえばこれ!?先に紹介した「サクラエビ」の他にも、春に美味しいと言われている旬の魚介類をご紹介します!

まだい(タイ科)

～静岡県 旬の魚3月代表!※1～

◎分布：北海道以南



魚の中でも特に珍重される鯛(タイ科)の王様は、春になると「桜鯛(季語)」として旬を迎えます。普段、深場にいるマダイは、春になると産卵のために内湾の浅いところに集まります。その時のマダイの体色が鮮やかな桜色をしていることから、そう呼ばれるようになったと言われています。食べ頃は産卵前です。産卵後は味が落ちてしまうそうなので、お早めにどうぞ。

◇味わってみたい旬の珍?魚◇

うみたなご(ウミタナゴ科)の仲間

～胎生の魚～

◎分布：琉球列島を除く北海道以南

魚の多くは、体外に卵を放出し子孫を残します。とこ

ろが、ウミタナゴの仲間はメスの体内で卵がふ化し、親と同じ姿をした稚魚がお腹から生まれ出てくる、「卵胎生」の生態を持っています。春は、メスのお腹の中に子供がいる時期です。1匹食べてみたら10匹だった!?ということもあるかもしれない!!食べるのには少し勇気が必要かもしれませんが、身は柔らかく淡白で、煮つけやフライにするとおいしいそうです。



☆番外編：これが本当の海の団子だ!☆

だんごうお(ダンゴウオ科)

◎分布：太平洋側；福島県～三重県、

日本海側；青森県～新潟県



全長約4cmにしかならない、とても小さな魚です。名前の通り団子のような丸い体形をしており、腹びれが変形した吸盤を使って、岩や海藻などにくっつくことができます。色彩はバリエーションに富み、筆者は一目見ただけで虜になってしまったほど、可愛い外見をしています。“ダンゴ”という、おいしそうなお名前ですが、食用にはされていないのでご注意ください。

いかがでしたでしょうか?当博物館では春休み期間中に「桜」をテーマとした展示を行います。ここで紹介した、生き物の一部も登場する予定です。陸上の桜を楽しんだ後は、ぜひ「海のサクラ」もご覧ください。

※1：静岡県おさかな普及協議会「旬の魚14選」より

自然史博物館の新展示

「海から生まれた生命」

柴 正博

Masahiro SHIBA

自然史博物館では、平成25年1月から「海から生まれた生命」という新たな展示コーナーを増設しました。これと同時に、従来の展示コーナーにも展示物を追加して、より多くの標本を見ていただけるようにしました。

まず、「海から生まれた生命」の展示は、2階の「生きている化石」コーナーの横に展示ケース2台を設置し、その中に40点の実物化石標本を展示しました（写真1）。これまで、自然史博物館の展示では主に陸上の脊椎動物の進化をテーマとしてきましたが、新コーナーでは海の無脊椎動物や新しい時代の魚類の化石を多く展示しました。

1台目のケースには、三葉虫やサンゴなどの主に古生代の無脊椎動物の化石が多く展示されていますが、ここでの注目は先カンブリア時代のエディアカラ生物群の実物の標本です（写真2）。日本の博物館では実物の展示はあまり見られません。



写真2 エディアカラ生物群の化石。デッキンソニア（右）とサイクロメデウサ（左）。

地球は今から約46億年前にできたといわれ、最も古い生命の証拠は約35億年前の海に生まれたラン藻の化石です。生命はその後10億年かけて真核生物を誕生させ、多細胞生物の化石はようやく約6億年前の地層から発見されます。その後、約5億4200万年前の古生代になって、たくさんの種類の海にすむ生物が化石として知られるようになります。

先カンブリア時代末期（約6億年前）の地層から発見される化石は、生物が押しつけられた跡（印象化石）で、それらが地球上における多細胞生物の発生の証拠とさ

れ、エディアカラ生物群またはベンドビオンタとよばれます。

これらの化石は動物の化石のように見えますが、体が左右非対称であることから、藻類や菌類に近いものとも現在の生物の分類にないものとも考えられています。当館で展示されているエディアカラ生物群の化石は、ロシアのアルハンゲルスクから産出されたデッキンソニア（*Dickinsonia minima*）とサイクロメデウサ（*Cyclomedusa delicata*）です。小さくて、それも印象化石ですので、細かいところは見えにくいのですが、よ〜く観察してみてください。

それ以外の標本には、先カンブリア時代にラン藻がつくったストロマトライト、古生代のいろいろな三葉虫、鎖サンゴや蜂の巣サンゴ、ウミユリやウミツボミ、ウミサソリ、ヒトデ、腕足類、筆石とよばれる半索動物、珍しいものではオルドビス紀の蠕虫（ぜんちゅう）動物なども展示しています（写真3）。



写真3 「海から生まれた生命」の主に無脊椎動物化石の展示。

新コーナーの2台目のケースには、ドイツのゾルンホーフェンから発見されたジュラ紀後期（約1億5,000万年前）のサメ類やエイ類、イカ類やエビ類などをはじめとして、ブラジルの白亜紀中期サンタナ層（約1億年前）の石灰質団塊（ノジュール）およびアメリカ合衆国ワイオミング州南西部の新生代始新世（約5,000万年前）のグリーン・リバー層から発見された魚類、ウルグアイの新生代中新世前期から産したカニ類など、とても保存の良い化石を展示しました（写真4）。



写真1 「海から生まれた生命」の展示コーナー。



写真4 「海から生まれた生命」の主に魚化石の展示。

従来の展示への追加は次のとおりです。3階では恐竜ホールにカモノハシ竜のアナトタイタンの頭骨を展示しました(写真5)。また、入口部分に植物化石の展示ケースを設置し、古生代から新生代までの、シダ植物から裸子植物、被子植物の化石を展示しました。



写真5 カモノハシ竜のアナトタイタンの頭骨。

2階には大きなブラセンチセラス科のアンモナイトが展示されていましたが、それに加えて直径80cm以上のデスマセラス科のアンモナイト(*Pachydesmoceras* sp.)を展示しました(写真6)。この標本は、東海大学開発工学部の化石同好会によって北海道夕張市(大夕張地域白金沢と滝沢川との合流点の露頭)の中部蝦夷層群(白亜紀チューロニン中後期)から採集されたものです。

また、新生代の脊椎動物の展示ケースにゾウの化石やシカの化石を追加し、新生代の貝化石の展示ケースには山梨県身延町で調査し新たに発見したツキヒガイやニシ



写真6 デスマセラス科のアンモナイトの化石。

キガイ、フミガイなどを展示しました。

1階のディスカバリー・ルームでは、静岡県の化石を展示したケースを新設し、従来からあった掛川の化石の展示ケースにも標本を追加しました。また、通路の出口に向かう壁面には、ティラノサウルス・レックスの頭骨や恐竜の足跡のレリーフ、ドビノサウルスの頭骨を展示しました(写真7)。

これら、新たな展示も含めて、自然史博物館を今度はじっくりと見学していただければと思います。



写真7 ディスカバリー・ルーム壁面に展示した恐竜化石のレリーフ。

駿河湾で採集されたリュウグウノヒメ

富山 晋一
Shinichi TOMIYAMA

2012年12月、静岡市清水区興津沖の駿河湾でシラス漁を行っていた漁師の方から、珍しい魚が採れたとの連絡がありました。早速、当館の学芸員が引き取りに伺ったところ、船内のバケツで泳いでいたのは、背びれと臀びれが異様に大きな銀色の魚でした（写真1）。

この風変わりな形の魚はリュウグウノヒメ *Pterycombus petersii* という深海魚で、相模湾の江ノ島近海で採集された1標本に基づいて、1878年に新種記載されました。インド・太平洋と南西大西洋の熱帯域から温帯域に広く分布し、日本では東北以南の太平洋および日本海で見られます。普通は水深約300~500mにすんでいます。まれに浅い所で見つかることがあります。

本種の体は左右に平たく、小さな棘のある硬いうろこに覆われているので、触るとザラザラしています。特徴的な大きな背びれと臀びれの付根には鱗でできた溝（鱗鞘）があります。おそらくすばやく泳ぐ際には、この溝にひれを収容し水の抵抗を受けないようにするのでしょう。今回採集された個体は全長約30cmでしたが、最大で約50cmになります。



写真1. 駿河湾で採集されたリュウグウノヒメ



写真2. 食用にもなるシマガツオ

リュウグウノヒメは食用になりません。しかし、本種が属するシマガツオ科には約22種が知られ、これらのうちシマガツオ *Brama japonica*（写真2）などは味がよく、資源量も多いため漁獲対象になっています。

持ち帰ったリュウグウノヒメは、直ちに当館の予備水槽に収容し、泳ぐ様子を観察しました。体内にガスが溜まってやや浮き気味でしたが、主に胸びれで水をかき、多くの魚が推進力を得るために使う尾びれは軽く振るのみでした。このような泳ぎ方は、以前に飼育展示したことがあるシマガツオでも見られました（本誌Vol.34、

No.4参照）。当館ではリュウグウノヒメも何とか飼育展示したいと考え、ガス抜きや体表のすり傷の治療を行いました。しかし、徐々に衰弱し、残念ながら翌日には死亡しました。現在は、標本として当館に保存されています（登録番号MSM-12-49）。

このリュウグウノヒメを多くの方にご覧いただくため、2月16日から5月6日まで標本の特別展示を行っています。泳ぐ姿の動画も公開していますので、この機会にぜひご来館ください。

変わりコイノボリ史上初の…!?

手塚 覚夫

Sadao TEZUKA



写真1 変わりコイノボリ

毎年の恒例として制作している変わりコイノボリ（写真1）ですが、この時期になると『今年は何を題材にしようか!』と考え始めます。これから話題になりそうな海の生き物や恐竜などをピックアップし、職人さんと相談して、製作することが可能か、またうまく風に乗って泳いでくれるか、などさまざまな内容が検討されて作られます。昨年はクマノミの親子でお母さん、お父さん、こどもという大小3体の変わりコイノボリでした（写真2）。鮮やかなオレンジが青空に映え、良く泳いでくれました。



写真2 2012年クマノミファミリー登場

さて、今年の新作は…と悩みが始まったのですが、今年はみなさんにも親しんでいただいている自然史博物館の1階フロア展示が新しくなります。これは話題にできる!ということで少し光が見えてきたのも束の間。更に悩みは深くなります。

新しい展示のテーマは『静岡の自然』です。みなさん、静岡の自然というと何を思い浮かべますか? 静岡県は東西に長く、山もありますし、海もあります。特に、日本で一番深い駿河湾や、何とんでも日本一高い富士山がそびえ立っています。大きな河川もあります。そして、このような変化に富んだ自然の中で、さまざまな生き物たちが暮らしています。果たして何を題材にすれば良いものができるのでしょうか!?

必死の思いで考え出したのは『カワセミ』です（写真3・4）。初めは関係者一同、えっ!? という感じでした。鳥のカワセミですから、なかなかコイノボリには馴染みません。カワセミはきれいな水辺に棲む小型の鳥で、そ



写真3 カワセミ



写真4 カワセミ

の羽毛は光の当たり方で青く輝き、非常に美しい姿をしています。主に川の魚や昆虫を食べており、エサは水中に飛び込んでくちばしで捕えます。その後、木の枝などにエサを叩き付けてから、啜え直して飲み込みます。豊かな自然の中に棲むこのカワセミ、実は静岡市の「市の鳥」に指定されています。静岡の自然を象徴するシンボルとして、展示の方向性にバッチリです。

変わりコイノボリで鳥を題材にするのは初めてのこと。問題はうまく風に乗って泳いでくれるか、いや、飛んでくれるかということところです。そこは職人さんと共に挑戦です。鳥だからうまく飛べるというのは設計や製作とは別の話で、翼をうまく広げるのに苦戦しているところです。ここから頑張り、桜の咲くころには、青く鮮やかなカワセミのぼりが大空を羽ばたいていることでしょう。みなさん、楽しみにしててください。

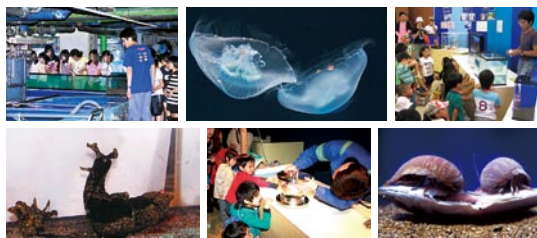
海洋科学博物館・自然史博物館



2013 博物館 春のイベント 情報

●海洋科学博物館のイベント 海のおもしろ実験会

3/23(土)、24(日)、30(土)、31(日)
4/06(土)、07(日)
11:30~ 20分ほどの実験や観察
13:30~ 20分ほどのテーマ別 有料バックヤードツアー



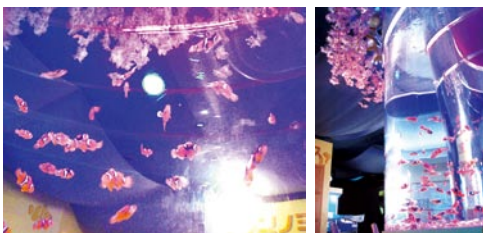
学芸員が生体や標本を用いて、海の生物の魅力や不思議を解説。アメフラシの生態・オオグソクムシの食事観察・水圧実験など！また、小学生以上の方には大型水槽やクマノミ類の繁殖・育成スペースへのバックヤードツアーも先着20名、参加費300円で開催致します。

※生物や施設の都合により内容が変更されることがあります。

さくら色の魚たち~春の魚とその匂~

3/20(水・祝)~4/21(日)

サクラダイやクマノミの水槽にサクラのデコレーションを実施。クマノミ水族館のリング水槽でクマノミの仲間が花びらのようにヒラヒラと泳ぎます。春に匂を迎える魚



たちもご紹介。

新 変わりコイノボリ登場 4/1(月)~5/6(月・祝) まで



●自然史博物館のイベント 恐竜ナイトツアー

3/23(土)、24(日)、30(土)、31(日)
4/06(土)、07(日) 17:45~19:00
定員: 100名 大人1,000円、小人500円
懐中電灯をご持参下さい。
電話でご予約下さい。



17:45 恐竜ホール入場
17:50 恐竜について説明
18:00 消灯後イベント
18:30 自由見学
19:00 閉館

サメの歯化石クリーニング

3/23(土)、24(日)、30(土)、31(日)
4/06(土)、07(日)
10:00~12:00、13:00~15:00
数量限定: 1日 100個 ひとつ500円



大接近！恐竜迫力撮影会

3/23(土)、24(日)、30(土)、31(日)
4/06(土)、07(日) 11:00~15:00



INFORMATIONについての問い合わせ: TEL.054-334-2385

ホームページ <http://www.muse-tokai.jp/>